

事業評価監視委員会の審議内容

1 審議 評価結果の内容（成果の達成度）について

(1) 質疑

Q1 指標4関連【利便享受の拡大】

指標値設定の考え方を説明して欲しい。

A1 狭あい道路（生活道路）の沿道徒歩3分の範囲と台町川崎線及び左岸バイパス（幹線道路）の沿道徒歩10分の範囲内に居住する人に対するアンケート調査により、交通の便が良いと回答のあった方の割合を用いて設定した。

Q2 その他指標4【中心市街地の営業店舗数】

カウントした対象範囲及び廃業数を減じているか。

A2 長岡駅周辺で主に容積率600%の商業地域を調査し、一日のうち少しの間でも開店していれば、指標に対する増加要因があったものとしてカウントした。

Q3 その他指標5【社会福祉施設利用者数】

カウントの範囲はどこまで含めているのか。

A3 高齢者、障害者を含む施設利用者及び視察等の見学者も含まれている。

(2) 審議内容

ア 指標1【公営住宅整備】の達成度△

・・・○へ修正

公営住宅の適正管理、及び、不用施設を除却して良好な居住環境を維持して行こうとする政策目的を考慮すれば、除却4戸はやむを得ない理由によるものであり、それ以外は目標値に達しているため、○とする妥当性がある。

イ その他指標1【既存公営住宅等耐震化率】の達成度○

・・・原案のとおり

ウ その他指標2【リフォーム改修件数】の達成度○

・・・再検討を要する。

エ その他指標3【空き家バンク登録件数】の達成度○

・・・再検討を要する。

前記イ及びウには、目標値が無いため、いろいろな判断ができる状態になっている。累積値ではなく増加率で示すなど、ロジックから再検討が必要ではないか。

⇒後日修正資料を委員長へ説明し、前記ウについては、「住宅リフォーム助成の利用状況」への修正により了承。また、前記エについては目標値の設定により了承。

オ 指標2【拠点性向上】の達成度△

・・・原案のとおり

カ その他指標4【中心市街地営業店舗数】の達成度○

・・・原案のとおり

キ その他指標5【社会福祉施設利用者数】の達成度○

・・・原案のとおり

ク 指標3【居住環境の向上】の達成度△

・・・○へ修正

土地区画整理事業の計画変更（保留地が一戸建て以外の業務系や隣接地権者に売却等されたこと）に伴って目標値の母数が減少したものであり、○とする妥当性がある。

ケ 指標4【利便享受の拡大】の達成度△

・・・原案のとおり

コ その他指標6【保留地の売却率】の達成度○

・・・原案のとおり

サ その他指標7【5.5m未満の市道延長の減少】の達成度○

・・・原案のとおり

シ 指標5【地域住民の意識向上】の達成度○

・・・原案のとおり

ス 指標 6【地域住民による空間整備】の達成度○ . . . 原案のとおり

2 審議 評価結果の内容（効果発現要因の整理）について

(1) 質疑

Q1 雁木は伝統的な建築物であり、街並み環境整備事業の効果促進事業として整理できないのか。

A1 国や県と協議し、公営住宅関連事業の効果促進事業として交付採択を受けたもの。

(2) 審議内容

ア 指標 1【公営住宅整備】、その他指標 1【既存公営住宅等耐震化率】、その他指標 2【リフォーム改修件数】及びその他指標 3【空き家バンク登録件数】の関連事業について

- ・ 雁木整備によって地域の住環境向上に寄与するため、意義がある。
- ・ 雁木整備により、まちなかの居住環境が良くなり、ストックの流動化が図られると御説明いただいた方がまだ納得できる。
- ・ 雁木整備及びリフォームについては、公営住宅整備との関連性はないと思われる。
- ・ 雁木を外すことの妥当性を整理する必要がある。
- ・ 交流の増加に寄与する雁木の整備については、定性的指標へ関連付けてはどうか。

<結論>

- ・ その他指標 1【既存公営住宅等耐震化率】の関連事業について、既設公営住宅等耐震診断事業及び建替等移転助成事業の欄に○を追加
- ・ 指標 1【公営住宅整備】と既成市街地雁木整備事業及び既存民間住宅リフォーム改修事業の関連性について、委員 2 名から削除にすべきと意見があがっており、再検討を要する。

⇒後日、別途説明資料により、委員長へ再説明を行った結果、修正後資料のとおり、了承された。

イ 指標 2【拠点性向上】、その他指標 4【中心市街地営業店舗数】及びその他指標 5【社会福祉施設利用者数】の関連事業について

<意見>

前川駅周辺整備事業「にぎわいの創出」から「アクセス性向上」へ修正

<結論>

- ・ その他指標 4【中心市街地営業店舗数】の関連事業について、市街地再開発事業化検討調査事業、市街地循環バス運行改善事業及び中心市街地活性化方策検討事業の欄に○を追加
- ・ その他指標 5【社会福祉施設利用者数】の関連事業について、市街地再開発事業化検討調査事業及び市街地循環バス運行改善事業の欄に○を追加
- ・ その他指標 5【社会福祉施設利用者数】の関連事業について、まちなか公共サイン整備事業の欄に◎を追加

ウ 指標 3【居住環境の向上】、指標 4【利便享受の拡大】、その他指標 6【保留地の売却率】及びその他指標 7【整備延長】の関連事業について

<意見>

売却率の指標で「売却率の増加」とするのは、意味が通じにくいいため、適当な文言を

検討した方が良い。

<結論>

原案のとおり承認（一部文言を検討）

エ 指標5【地域への意識向上】及び指標6【地域住民による空間整備】の関連事業について

<意見>なし

<結論>原案のとおり承認

(3) その他意見

ア 指標設定について

(ア) 長岡駅利用者数と平日歩行者数は相関があると考えている。駅利用者の70%から80%はビジネス客であり、今後は注目していく中で、共に増加していくことが望ましい。

(イ) 大規模な公共投資によって中心市街地の歩行者交通量増加は、当然の結果ではないか。公共施設の集積と分散配置によって行政職員の行き来も多いことから、指標選定の際は、商業施設売上高を視点に入れても良いのではないか。

(ウ) 新しい社会福祉施設は、使い勝手が良く以前に比べて行き易くなった。その点と中心市街地のにぎわい創出をどう結び付けていくか、継続的な検証作業が必要。

(エ) どういう指標設定が最適なのか難しい面があり、今後、指標を検討する際は、本日の議論を踏まえて慎重に検討してほしい。

イ 効果について

その他指標1【既存公営住宅等耐震化率】について、国や県が目標値であるのに対し、実績ベースで伸び率が高くなっており、非常に良い効果が表れている。

2 今後の社会資本整備方策について

(1) 課題「安全・安心して生活し続けることのできる住まいづくりのための住宅整備と供給」に関する意見

- ・供給数を増やすことだけが全てではない。居住者を担保できない施設等の見直しは、前向きな政策だと思う。

(2) 課題「拠点整備や再開発事業等による中心市街地の賑わいの創出」に関する意見

- ・イベントでの賑わいは定着してきた。イベント以外にも質の高いコンテンツがあり、そろそろ定常的なサービスの質の向上が求められてもいいのではないか。
- ・相談支援センターへ来たくても行けない又は相談先が分からないケースがあり、市からも対応をお願いしたい。

(3) 課題「拠点市街地が備える利便性を周辺地域でも享受できるような道路整備の促進」に関する意見

- ・全てを行政が維持管理するのではなく、狭あい道路整備で利益を受ける人も含めて、地域の人達からも関わっていただき、一緒になって維持管理していくなどの政策に舵

を切っても良いと思う。

(4) 課題「各地域の個性を活かした魅力あるまちづくりの推進と市民の地域に対する意識の啓発」に関する意見

<意見>

摂田屋地区について、観光としてのおもてなしを考えた場合、大型バスの受入体制を検討してはどうか。住宅環境に特化した街並み環境整備事業では、実施できないと認識した方が良いのか。

<回答>

摂田屋地区は情報発信拠点として大事な場所であり、今年度に委員会を設けて検討している。居住環境の方策検討であり、徒歩による街並み散策をターゲットに考えると車が住環境を悪化させる要因になる。単なる観光目的の車を受け入れるための駐車場を街並み環境整備事業で行うことは難しいかもしれないが、検討の中で出来ることは積極的に計画して行きたい。

(5) その他の意見

- ア 小学校では、学校から外に出て住んでいる町を探検し、調べる学習を行っている。子供たちが町を調べたくなるような町づくりがあって、それを上手くバックアップしていくような政策や仕組み作りが片方であると良い。「最後は人」という視点が出てくる。
- イ 表町東地区にビジネスの拠点ができたり、生活拠点が中心市街地に集中すると利便性は向上する。その際、できるだけ長く来街者に滞在いただく工夫が必要で、経済発展が必要な状況の中、消費の鍵を握る女性の意見をできるだけ取り入れて、事業を進めて行く必要がある。
- ウ 障害者も高齢者も居住地域で不便なく生活して行けることが大切。利用者が、如何に快適に利用できるかの視点は持ち続けていく必要がある。

※委員会審議内容は、以上のとおり